

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別、年齢、職業、家族構成、居住年数、居住地域、居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い、好きな理由、嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の利用状況、「広報うつのみや」の入手方法、「広報うつのみや」で読んでいる主な記事
デジタル化	デジタル機器の所有状況、インターネットを利用しているか、インターネットを利用しない理由
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間、社会的な活動の実施状況、配偶者からの暴力を受けた経験
保健と福祉のまるごと相談窓口エールU	保健と福祉のまるごと相談窓口エールUの認知度
まちづくり活動への参加意識	まちづくり活動に参加しているか、参加中または興味があるまちづくり活動、まちづくり活動に参加していない理由
防犯・交通安全に関する意識・状況	安心して暮らすことができているか、自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況、自転車保険の加入状況
多様な性	LGBTQ（エルジービーティーキュー）の認知度
空き家に関する意識	所有している（将来相続する可能性のある）住宅の今後について、空き家の活用について、宇都宮空き家会議にして欲しい取組について
成年後見制度	成年後見制度の認知度
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか、結婚に対する考え、結婚している（いずれ結婚するつもり）場合、お子さんは何人ほしいか
宮っこを守り・育てる都市宣言	「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度
雇用形態	現在の雇用形態、希望する雇用形態、希望する雇用形態を選んだ理由
宇都宮産の農産物	宇都宮産の農産物の購入意欲、宇都宮の農業を大切にしたいと思うか、環境に配慮して生産された農産物の購入意欲
カーボンニュートラル（脱炭素）	省エネルギーや創エネルギーなどの取組、現在取り組んでいない理由・要因
SDGs	SDGsの認知度
もったいない運動	「もったいない運動」の認知度
良好な生活環境の確保に係る市民満足度	環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策の満足度
生物多様性	「生物多様性」の認知度、外来種が及ぼす影響の認知度

自転車のまちづくり	「自転車のまち」の実現を目指していることの認知度、自転車を使いやすいまちだと思うか、「自転車のまち」を推進していく上で必要な取組
スポーツに関すること	市の魅力向上にスポーツが活用されていると感じているか、直接会場へ行ってプロスポーツ観戦をしたか、スポーツに関する指導を行ってみたいと思うか
日本遺産	「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度、「大谷石文化」を誇りに思うか
文化的景観	「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことの認知度、「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が重要文化的景観に選定されたことを誇りに思うか
選挙の投票率向上に向けた取組	どのような方法で選挙の有無を認知しているか、選挙の低投票率の理由
生涯学習	現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているか
中心市街地の活性化	中心市街地に出かける頻度、中心市街地へ出かける目的、街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか
宇都宮市のみどり	みどりの量についての感じ方、「みどり」に関することで取り組みたいこと、「みどり」を増やすために必要な取組
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどう感じるか、イベントや求人告知などで街なかを走行する広告宣伝車の印象、街なかを走行する広告宣伝車について、そのような印象を持たれた点
水災害（洪水など）への備え	水災害への備えとして取り組んでいること

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満18歳以上の日本国籍を有する市民5,400人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和7年7月30日～8月30日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
5,400	2,758	51.1%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10 歳代	男性	38	1	2.6%	7	18.4%	8	21.1%
	女性	44	2	4.5%	10	22.7%	12	27.3%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	計	82	3	3.7%	17	20.7%	20	24.4%
20 歳代	男性	285	11	3.9%	50	17.5%	61	21.4%
	女性	231	13	5.6%	64	27.7%	77	33.3%
	その他	—	0	—	1	—	1	—
	計	516	24	4.7%	115	22.3%	139	26.9%
30 歳代	男性	355	24	6.8%	75	21.1%	99	27.9%
	女性	308	27	8.8%	112	36.4%	139	45.1%
	その他	—	2	—	1	—	3	—
	計	663	53	8.0%	188	28.4%	241	36.3%
40 歳代	男性	485	48	9.9%	136	28.0%	184	37.9%
	女性	373	55	14.7%	137	36.7%	192	51.5%
	その他	—	0	—	1	—	1	—
	計	858	103	12.0%	274	31.9%	377	43.9%
50 歳代	男性	494	85	17.2%	115	23.3%	200	40.5%
	女性	453	127	28.0%	159	35.1%	286	63.1%
	その他	—	1	—	1	—	2	—
	計	947	213	22.5%	275	29.0%	488	51.5%
60 歳代	男性	406	140	34.5%	93	22.9%	233	57.4%
	女性	391	200	51.2%	85	21.7%	285	72.9%
	その他	—	1	—	0	—	1	—
	計	797	341	42.8%	178	22.3%	519	65.1%
70 歳代	男性	374	195	52.1%	47	12.6%	242	64.7%
	女性	492	326	66.3%	45	9.1%	371	75.4%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	無回答	—	1	—	—	—	1	—
計	866	522	60.3%	92	10.6%	614	70.9%	
80 歳以上	男性	214	116	54.2%	9	4.2%	125	58.4%
	女性	457	188	41.1%	20	4.4%	208	45.5%
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	無回答	—	3	—	0	—	3	—
計	671	307	45.8%	29	4.3%	336	50.1%	
無回答	男性	—	3	—	0	—	3	—
	女性	—	0	—	0	—	0	—
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	無回答	—	21	—	0	—	21	—
計	—	24	—	0	—	24	—	
全体	男性	2,651	623	23.5%	532	20.1%	1,155	43.6%
	女性	2,749	938	34.1%	632	23.0%	1,570	57.1%
	その他	—	4	—	4	—	8	—
	無回答	—	25	—	0	—	25	—
合計	5,400	1,590	29.4%	1,168	21.6%	2,758	51.1%	

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,758	±1.12%	±1.49%	±1.70%	±1.82%	±1.86%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.45%
1,200	±1.70%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.83%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

< 標本誤差の算出方法 >

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の満18歳以上の人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

< 表の見方 >

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,758で宇都宮市が「好き」との答えが50.5%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも50.5%±1.86%以内(48.64%~52.36%)である」とみることができる。

6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- n値が少ない属性は記述に含まれない場合がある。
- 世論調査のクロス集計結果については、年齢や家族構成等の属性によって、回答者数にばらつきがあることから、参考として記載する。